

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-43	高等学校	商業科	ビジネス・マネジメント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	商業707	ビジネス・マネジメント		

1. 編修の基本方針

編修にさいし、教育基本法に定める「第一 教育の目的と理念」を参照し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う教育を推進することを基本方針としている（教育基本法第二条）。

さらに個別の項目については、学習指導要領と学習指導要領解説をふまえて編修し、用語や概念、理論は基礎的なものに限定して、事例や画像、図表を多く用いながら丁寧な説明を心がけた。また、グループワークや調べ学習を適度に扱い、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。

第1章では、ビジネスにおけるマネジメントについて基礎的な知識をもとに、生徒がさまざまな視点から考察・討論ができるように配慮し、唯一の答えがない論点については、複数の具体的な事例から多様な考え方を紹介した。

第2章では、組織の管理と活性化の方策について、企業が組織のマネジメントをおこなう目的や効果についての理解を深めるために、記述を工夫した。たとえば今後日本でも増加していくと考えられる企業の合併と買収については、メリットとデメリットについて考察する課題を設けるなどして、生徒の理解を深める工夫をした。

第3章では、経営資源の適切な管理と効果的な活用の重要性について理解させるために、はじめに自動車メーカーの成功事例を示してから、4つの経営資源のマネジメントについて記述した。また、今日の情報通信技術の発展をふまえた「AI（人工知能）の発達によって、新しく生まれる職業となくなる職業」を考える課題などで、生徒の興味をひきだすよう工夫した。

第4章では、企業の秩序と責任に関する基礎的な知識をもとに、生徒自身が興味をもつビジネスでは、どのように社会的責任を果たせるかなどを考えさせる課題によって、生徒が主体的・創造的に課題を解決する力を養えるよう工夫した。

第5章では、ビジネスの創造と展開について、それまでの学習をふまえた事業計画書を作成する学習を通して、企業を取り巻く環境が変化するなかで、企業活動が社会に及ぼす影響に責任をもち、経営資源を最適に組み合わせて適切にマネジメントをおこなうために必要な資質・能力の定着を図るよう促した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 ビジネスとマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションに成功した運送業者から画像の提供と、内容の適否確認を受け、その企業の革新性について記述（第二号）。 ・渋沢栄一の理念と企業の発展につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・10ページ13行目～19行目、側注② ・18ページ～19ペ

	<p>いて、記念館からの画像の提供と、内容の適否を受けながら、現代にも通じる考え方であることを記述（第三号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎彌太郎の理念と企業の発展について、史料館と企業から画像の提供と、内容の適否確認を受けて記述（第三号）。 ・わが国と世界の地域統合の現状について図示（第五号）。 ・情報通信技術を用いた情報提供サービスについて、市から内容の適否確認を受けて記述，作図（第三号）。 ・1章で学んだ内容をもとに，調べたり考えたりする問題を掲載（第一号）。 	<p>ージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20ページ～21ページ ・23ページ図 ・26ページ4行目～10行目，側注① ・30ページ
第2章 組織のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地への貢献が目された運送業者から，画像の提供と，内容適否の確認を受けて，経営理念の役割について具体的に記述（第二号）。 ・日本企業によるM&A件数について，グラフを用いて具体的な推移を示し，あくまで増加の傾向にあることを示唆（第一号）。 ・2章で学んだ内容をもとに，調べたり考えたりする問題を掲載（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・41ページ事例 ・51ページグラフ ・54ページ
第3章 経営資源のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の行動様式によって生み出されたアイデア商品を取り上げ，画像の提供と，内容の適否確認を受けながら，行動様式の意義について記述（第三号）。 ・3章で学んだ内容をもとに，AIの発達による社会の変化について，調べたり考えたりする問題を掲載（第二号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・68ページ表，8行目～10行目，側注① ・100ページ
第4章 企業の秩序と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル消費について記述（第四号）。 ・IRについて記述（第三号）。 ・4章で学んだ内容をもとに，調べたり考えたりする問題を掲載（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・115ページ ・117ページ ・118ページ
第5章 ビジネスの創造と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルビジネスについて，バスの運行をおこなうNPOから，画像の提供と，内容適否の確認を受けて記述（第三号）。 ・地域産業について，葉っぱに関するビジネスをおこなう企業から，画像の提供と，内容適否の確認を受けて記述（第三号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・120ページ20行目～121ページ7行目，120ページ側注⑤ ・121ページ18行目～27行目，側注

	<p>・ 5章で学んだ内容をもとに、調べたり考えたりする問題を掲載（第一号）。</p>	<p>・ 140ページ</p>
--	---	-----------------

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

口絵は生徒の興味を引き出すとともに、本文の補足的な内容になるよう配慮し、「実務に即して体系的・系統的に理解」できるようにした。

「企業統治」（口絵①）では、企業統治について、企業統治の強化が図られるようになった背景から現在までの流れをつかめるよう、1ページにまとめた。「組織のマネジメント」（口絵②）では、ボーダーレスに活躍する企業についてはファストフード店を例に、M&Aについては国内の清涼飲料メーカーを例に挙げ、生徒が身近なところからビジネスに興味をもつように工夫した。「日本のイノベーター」（口絵⑤）「世界のイノベーター」（口絵⑥）では、イノベーションがビジネスの世界だけではなく、私たちの生活も変えることを理解し、イノベーションの重要性について理解が深まるように工夫している。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
102-43	高等学校	商業科	ビジネス・マネジメント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	商業707	ビジネス・マネジメント		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) ビジネスのマネジメントに必要な基礎的な知識を習得させるために、丁寧な記述と、豊富な写真・図版を掲載した。
- (2) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して理解させるために、適切な具体事例を選定し数多く取りあげた。
- (3) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、解決する力を養うために、統計資料を豊富に掲載し、小問（「やってみよう」）と章末課題を設けた。
- (4) ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養うために、適宜グループワークを設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領 の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 ビジネスとマネジメント			
第1節 マネジメントの役割	(1)ア		
①ビジネスの担い手としての企業		2 ページ	1
②ビジネスの拡大と株式		3 ページ	
③株式会社のはじまり		4 ページ	1
④利害関係者（ステークホルダー）		5 ページ	
⑤企業の発展とマネジメントの役割		6 ページ	
⑥ビジネスとマネジメント		7 ページ	1
⑦日本の伝統的経営とマネジメントの課題	8-9 ページ		
第2節 イノベーションの重要性	(1)イ		
①新たな利益をもたらすイノベーション		10 ページ	1
②新しい商品の開発		10 ページ	
③新しい生産・流通・販売の導入		11 ページ	1
④新しいビジネスモデルによる市場の開拓		12-13 ページ	
⑤経営組織の形成		14 ページ	
⑥イノベーションのジレンマ	15 ページ	1	
第3節 創業者や経営者の理念	(1)ウ		
①ビジネスの成功とは何か		16 ページ	1
②100年以上続く老舗企業	17 ページ		

③ 渋沢栄一の理念と企業の発展		18-19 ページ	1	
④ 岩崎彌太郎の理念と企業の発展		20-21 ページ	1	
⑤ 明治時代を代表する二人のマネジメント		21 ページ		
第4節 ビジネスにおける外部環境の影響				
① 経済のグローバル化の進展	(1)エ	22-23 ページ	1	
② グローバル化とマネジメント		23 ページ		
③ グローバル化の新たな課題		24 ページ	1	
④ 規制緩和とマネジメント		25 ページ		
⑤ 情報通信技術 (ICT) の発展		26 ページ	1	
⑥ インターネットを活用したビジネス		26-27 ページ		
⑦ 情報通信技術 (ICT) の課題		27 ページ	1	
⑧ 少子高齢化の進展		28-29 ページ		
第1章 章末課題			30 ページ	1
第2章 組織のマネジメント				
第1節 組織の形態	(2)ア			
① 組織の三つの要素		32-33 ページ	1	
② 効率的な分業と組織の分化		33 ページ		
③ 組織の基本形態		34-37 ページ	1	
④ 人と組織のマネジメント		37-38 ページ	1	
⑤ 組織の適切な管理と活性化	38-39 ページ			
第2節 経営理念と経営戦略	(2)イ			
① 経営理念の意義		40-41 ページ	1	
② 経営理念の必要性		41 ページ		
③ 経営理念とマネジメント		42 ページ	1	
④ コーポレート・アイデンティティ (CI) とブランディング		43 ページ		
⑤ 経営戦略の意義		44 ページ	1	
⑥ 3C 分析・PEST 分析・SWOT 分析		44-45 ページ		
⑦ PPM (プロダクトポートフォリオマネジメント)・ファイブフォース分析		46-47 ページ	1	
⑧ 経営戦略とマネジメント	47 ページ			
第3節 企業間連携と事業構造の再構築	(2)ウ			
① 企業間連携		48-50 ページ	1	
② 事業構造の再構築		50-53 ページ	2	
③ 規模の経済と範囲の経済	53 ページ			
第2章 章末課題		54 ページ	1	
第3章 経営資源のマネジメント				
第1節 経営資源の種類と最適化	(3)ア			
① 経営資源の種類		56-57 ページ	1	
② 経営資源の最適化	57 ページ			
第2節 人的資源のマネジメント	(3)イ			
① 人事・労務管理—採用・雇用		58-59 ページ	1	
② 人事・労務管理—ジョブローテーション (配置換え)		60 ページ	1	
③ 人事・労務管理—研修		61 ページ		
④ 人事・労務管理—雇用調整		62 ページ	1	
⑤ 人事・労務管理—年功序列型賃金と終身雇用	62-63 ページ			

⑥労使関係管理		64 ページ	1
⑦福利厚生制度		64-65 ページ	
⑧納税事務のマネジメント		66 ページ	1
⑨日本の人事・労務管理の変容		66-67 ページ	
⑩ダイバーシティ経営		67 ページ	1
⑪人間関係管理—集団の行動様式		68 ページ	
⑫人間関係管理—リーダーシップ		68-69 ページ	1
⑬人間関係管理—人間関係管理の諸理論		70-71 ページ	
⑭人間関係管理—人材活用の諸方法		72-73 ページ	1
第3節 物的資源のマネジメント			
①生産方式の種類	(3)ウ	74-75 ページ	1
②調達ルート管理		76 ページ	1
③原価管理		76 ページ	
④品質管理		77 ページ	1
⑤日程管理		77 ページ	
⑥販売ルート管理		78 ページ	1
⑦施設・設備管理		78 ページ	
⑧在庫管理		79 ページ	1
⑨生産現場の分析		80 ページ	
⑩生産の三条件		80 ページ	1
⑪生産の流れ		81 ページ	
⑫第四次産業革命		81 ページ	
第4節 財務的資源のマネジメント			
①財務管理の考え方	(3)エ	82 ページ	1
②財務会計の目的		82-83 ページ	
③管理会計の目的		83 ページ	1
④予算管理		84-85 ページ	
⑤資金調達の方法		86 ページ	1
⑥資金調達の動向		87 ページ	
⑦情報通信技術 (ICT) と金融		87 ページ	1
⑧さまざまな金融商品		88-89 ページ	
⑨金融商品の利点とリスク		89 ページ	1
⑩財務分析とマネジメント		90-91 ページ	
第5節 情動的資源のマネジメント			
①情報化社会	(3)オ	92 ページ	1
②情報通信技術 (ICT) の活用		93 ページ	
③知的財産権の活用		94 ページ	1
④ブランドの維持		94-95 ページ	
⑤信用の維持と向上		95 ページ	1
⑥情報セキュリティマネジメント		96-97 ページ	
⑦情動的資源の管理と課題		97 ページ	1
⑧顧客情報の管理		98 ページ	
⑨販売促進と情動的資源		98-99 ページ	1
第3章 章末課題			100 ページ
第4章 企業の秩序と責任			
第1節 企業統治 (コーポレート・ガバナンス)	(4)ア		1
①企業統治 (コーポレート・ガバナンス) の重要性		102 ページ	
②情報開示 (ディスクロージャー)		102-103 ページ	

③内部統制システム		103-105 ページ	1
第2節 リスク・マネジメント	(4)イ		
①ビジネスにおけるリスク		106 ページ	1
②リスクの種類		107-109 ページ	1
③リスク・マネジメント		110-111 ページ	1
④事業継続計画		112 ページ	1
⑤保険		112-113 ページ	
第3節 企業の社会的責任	(4)ウ		
①環境の保護と保全		114 ページ	1
②共通価値の創造		114-115 ページ	
③企業の社会的責任		116-117 ページ	1
④文化活動の支援		117 ページ	
第4章 章末課題			118 ページ
第5章 ビジネスの創造と展開			
第1節 ビジネスの創造の意義と課題	(5)ア		
①ソーシャルビジネス		120 ページ	1
②ソーシャルビジネスの担い手		120-121 ページ	
③地域産業の振興とソーシャルビジネス		121 ページ	
④ビジネスモデルの事例分析		122-123 ページ	1
⑤社会的な課題と新しいビジネスモデルの考案		124-127 ページ	2
第2節 プロジェクト管理	(5)イ		
①プロジェクト管理の目的		128 ページ	2
②プロジェクト管理の流れ		128-131 ページ	
③プロジェクトの事後評価		131 ページ	
第3節 起業の意義と手続き	(5)ウ		
①企業家精神の重要性		132 ページ	1
②起業の支援体制		132-133 ページ	
③事業計画書の作成		134-135 ページ	1
④株式会社設立の手続きの概要		136-137 ページ	1
⑤さまざまなビジネスモデル		138 ページ	
⑥株式会社をつくろう		138-139 ページ	2
第5章 章末課題		140 ページ	1
		計	70